

2022 年度業務実績報告書

提出日 2023 年 1 月 3 日

1. 職名・氏名 准教授 舟木 紳介

2. 学位 Master of Arts 専門分野 ソーシャルワーク 授与機関 シドニー大学 授与年 1999 年

3. 教育活動

<p>(1)講義・演習・実験・実習</p> <p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 ・精神保健ソーシャルワーク実習 (6 単位 毎年開講) 3 年生 2022 年度</p> <p>② 内容・ねらい ・精神保健福祉分野で働くソーシャルワーカーが必要とする価値・倫理、知識、技術および関連知識を習得し、精神保健福祉サービスの利用者と援助の実際を理解し、精神保健福祉ソーシャルワーカーとしての実践力を養う。</p> <p>③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・実習事前学習 (計画書作成) ではワークショップ形式で学生相互に学びあう環境を作った。実習計画書作成において個別面接を行い、学生一人一人の学びの状況に合わせて指導を行った。実習期間中に帰校日での実習指導では、グループワークによる学生相互の意見交換を促進させるために、各時間にピアサポートグループによる学生の自主的な話し合いの時間を設定した。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 ソーシャルワーク論 I (2 単位 毎年開講) 1 年前期 (2022 年度)</p> <p>② 内容・ねらい 現代社会における相談援助の専門職としての社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義を概観し、ソーシャルワークの概念と範囲について検討する。ソーシャルワークの実践基盤である人権と社会正義についてその概念と発展段階を講義する。グローバル化する社会における多様なソーシャルワークの利用者の権利擁護および専門職の倫理について理解する。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・ 15 コマを担当した。LMS を通じて資料配布等の情報交換を行い、オンライン授業では Zoom を使用し講義した。 ・ ワークショップ形式での授業も採用し、学生同士の意見交流の場をつくった。 ・ ソーシャルワーク論 I の一環として、国連および NGO が主催する世界の貧困問題解決をめざしたキャンペーンの紹介やデジタルメディアを活用した教育問題解決実践をセネガルで実践した元青年海外協力隊を招聘し、グローバルな社会福祉実践におけるメディアの意義を考える機会を提供できた。</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等 ソーシャルワーク論 II (2 単位 毎年開講) 1 年後期 (2022 年度)</p> <p>② 内容・ねらい 日本および国際社会におけるソーシャルワークの概念の発展の歴史について、相談援助の概念および範囲と関連付けながら、講義する。グローバル化する社会における多様なソーシャルワーク実践の具体的な課題や事例を取り上げながら、相談援助の専門職としてのソーシャルワーカーのアイデンティティや倫理的ディレンマについて検討する。相談援助における包括的な援助実践に向けた多職種連携の重要性について講義する。</p> <p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・ 15 コマを担当した。LMS を通じて資料配布等の情報交換を行い、オンライン授業では Zoom を使用し講義した。 ・ ワークショップ形式での授業も採用し、学生同士の意見交流の場をつくった。</p>

1.担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
国際福祉論 (2単位 毎年開講) 2年後期 (2022年度)

2.内容・ねらい

グローバル化する現代社会におけるソーシャルワークの課題について、多文化な視点からソーシャルワークの理論、実践を中心に学習し、多様な人々の暮らしのグローバルかつローカルな課題と関連付けて考える。

3. 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- ・ 15コマを担当した。LMSを通じて資料配布等の情報交換を行い、オンライン授業ではZoomを使用し講義した。
- ・ ワークショップ形式での授業も採用し、学生同士の意見交流の場をつくった。

1.担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
社会福祉演習 (4単位 毎年開講) 通年 (2022年度)

2.内容・ねらい

社会的なマイノリティ支援分野における文化的市民権 (市民の文化的な社会参加) をテーマに、デジタルメディア、文化、アートを活用したソーシャルワーク実践の意義を考える。

3. 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- ・ 30コマを担当した。LMSを通じて資料配布等の情報交換を行い、オンライン授業ではZoomを使用し講義した。
- ・ ワークショップ形式での授業も採用し、学生同士の意見交流の場をつくった。特にデジタルメディアを使った映像制作について学ぶ授業をオンラインおよび対面で行った。

大学院

1.担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
国際福祉特論 (2単位 毎年開講) 1年前期 (2022年度)

2.内容・ねらい

グローバル化する現代社会におけるソーシャルワークの課題について、多文化な視点からソーシャルワークの理論、実践を中心に学習し、多様な人々の暮らしのグローバルかつローカルな課題と関連付けて考える。授業は主に、文献の読解、講義、ディスカッションを行う。

3. 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

- ・ 15コマを担当した。LMSを通じて資料配布等の情報交換を行い、オンライン授業ではZoomを使用し講義した。
- ・ ワークショップ形式での授業も採用し、学生同士の意見交流の場をつくった。

(2)非常勤講師担当科目

①担当科目名 (単位数) 開講学校

(3)その他の教育活動

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 学術論文 (査読あり) (共著)
1. ボランティア活動参加の様態の検討1-福井市で実施したアンケート調査のデータ分析から2- 一、福井県立大学論集, (58), 著者:塚本利幸、舟木紳介、橋本直子、永井裕子、2022年
2. ボランティア活動参加の様態の検討1-草津市で実施したアンケート調査のデータ分析から2- 、福井県立大学論集, (58), 著者:塚本利幸、舟木紳介、橋本直子、永井裕子、2022年
(2本)
② 著書
1. 第三章：少子高齢化の推移と福祉国家の現在- 少子高齢化を巡る現状の主な課題と政策的課題、 看護を学ぶ学生のための社会学、編者 濱野健ほか、明石書店、2022
③ 学会報告等
1. Self-help groups and creative practices for people who stutter through digital storytelling, SWESD 2022 conference, 2022年10月26日、オンライン
④ その他の公表実績
(2)学会活動等
学会でのコメンテーター、司会活動
学会での役職など オーストラリア学会広報担当理事
学会・分科会の開催運営
(3)研究会活動等
① その他の研究活動参加 (招聘講演・セミナー)
② その活動による成果
(4)外部資金・競争的資金獲得実績
1. 令和2年～令和4年日本学術振興会科学研究費基盤研究C「クリティカル多文化実践における デジタル・ストーリーテリングの活用」代表研究者：舟木紳介 令和4年度助成金額 1,170,000円
(5)特許出願

5. 地域・社会貢献活動

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会 2010年8月 福井市多文化共生推進協議会懇話会座長（現在に至る） 2014年7月 福井市多文化共生推進プラン改訂検討委員会委員（現在に至る）
② 国・地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥その他
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講
② 社会人・高校生向けの講座 1, 福井県立羽水高校 学問探究講座、2022年7月14日
③ その他
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等）

6. 大学運営への参画

(1)補職（副学長、部局長、学科長）
(2)委員会・チーム活動
デジタル推進委員会委員（現在に至る） サーバ更新ワーキング会議委員（現在に至る） 発明委員会委員（現在に至る） SIM-ICT ワーキング委員（現在に至る） 大学院入試委員（現在に至る）
(3)学内行事への参加
1年生担任業務 主担当
(4)その他、自発的活動など